

拜啓

原稿用紙を知りてお手紙をさし上げよとの
の矢札を知らざりてはありませぬ。私の
下筆な字はしるしで、一ぱに書くよりは、
いくらか読みやすいのにはないかと思ひま
す。で、あえて原稿用紙を使ひました。お
許し下さりませ。

新清流の座談会で、先生私の文士劇に
関する小文について、発言されておるのを
拝見いたしましたので、いささか辨明いた
したく存じます。御手紙を拝見しますと、
もしお読みいただきければ、と考へまして、
この手紙を書きました。

明治維新以来、日本のあつた令野で、
若者達如き材料、父親を否定することにし
て、自分の存在理由を見出さずしてを
たことを、不幸なことだつたと私は考へま
す。米国のとくは新しき如きやの國でも、
南米でも父、信仰あつた、といふい
ふいは極まりなく、多くは父に
おそれ、おそれ、おそれ、おそれ、
とだと思ひます。

977年。

今までの何度かよりなぬお母にわつて、
まだよくに御挨拶もしようませぬ。お
會ひありましたら、申しあげようと思つて

二月九日

舟橋聖一先生

三浦朱門

大田区田園調布

一五ノ五

三浦朱門